

2019年12月24日

各位

医療被ばく研究情報ネットワーク
診断参考レベルワーキンググループ
診断用透視プロジェクトチーム
リーダー 加藤 英幸

「X線診断透視領域での診断参考レベル設定に向けた全国実態調査」

に関する第二次調査へのご協力をお願い

貴施設におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

9月1日から11月30日に行わせて頂きましたアンケート調査では全国120施設からのご協力を得て診断透視領域でのDRL設定に向けた中間報告を行うことができました。ご協力いただきました施設の皆様に深く感謝いたします。有難うございました。

この度、12月15日に開催されました第6回 J-RIME DRL WG 会合にて、診断透視領域のDRL値設定のDRL量と検査項目の候補が決まりました。DRL量に関しては、面積線量値、基準空気カメラ、透視時間、撮影回数、検査項目に関しては、第一次調査で検査頻度の多かった上位12項目で、イレウス管挿入、逆行性膵管胆管造影：ERCP（治療）、嚥下造影、腰椎神経根ブロック、中心静脈栄養用カテーテル挿入術（CV カテ・ポート挿入）、気管支鏡検査、食道・胃・十二指腸造影（検診）、腰椎脊髓腔造影：ミエロ、食道・胃・十二指腸造影（精検）、逆行性膵管胆管造影：ERCP（診断）、食道・胃・十二指腸造影、大腸（注腸）造影です。

今回、信頼性を高めるため、上記項目に絞り、第二次調査を行わせて頂きます。調査内容に関しても簡素化しましたので、第一次調査への回答を断念された施設におかれましても、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い致します。

尚、第一次調査でご回答いただいた施設に関しては、データの信頼性を高めるため、担当者へ個別にメールにてご質問させていただきますので、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

アンケート実施方法は Web からの回答となっています。

X線診断透視領域での診断参考レベル設定に向けた全国実態調査（2次調査）

<http://u0u0.net/UIFo>



調査期間は2019年12月23日（月）から2020年1月20日（月）

※ 線量が表示されない場合、透視時間、撮影回数のみでも結構です。

第一次調査の内容：

<http://u0u0.net/vARN>

診断透視プロジェクトチーム（診断透視 PT）メンバー一覧

- 加藤英幸：千葉大学医学部附属病院（日本放射線技術学会）
- 大谷浩樹：帝京大学 医療技術学部（日本医学物理士会）
- 白神伸之：東邦大学医療センター大森病院（日本医学放射線学会）
- 鈴木賢昭：ベルランド総合病院（日本診療放射線技師会）
- 中前光弘：奈良県立医科大学附属病院（日本放射線技術学会）
- 長畑智政：大阪市立大学医学部附属病院（医療放射線防護連絡協議会）
- 藤淵俊王：九州大学大学院医学研究院保健学部門（日本保健物理学会）
- 松原孝祐：金沢大学医薬保健研究域（日本放射線技術学会）

○：PT リーダー

〔調査内容のお問い合わせ先〕

医療被ばく研究情報ネットワーク 診断参考レベルワーキンググループ

診断用透視プロジェクトチーム リーダー 加藤 英幸

（所属：千葉大学医学部附属病院 放射線部）

e-mail：katohide@chiba-u.jp TEL：043-222-7171 内線（6296）